



SCB

ニュース&トピックス

No.2023-98

(2024. 3. 13)

信金中央金庫 地域・中小企業研究所

関東営業第1部 高木 美奈

03-5202-7671

s1000790@FacetoFace.ne.jp

川口信用金庫と青木信用金庫の連携事業について

ポイント

- 川口信用金庫および青木信用金庫¹（以下「両金庫」という。）は、同一市内に本店を置く信用金庫同士であることから、連携して地域貢献活動の企画・運営を行った。
- 具体的な連携事業として、駅前広場での食と音楽の融合イベントと、小学生を対象とした金融教育を実施した。
- 両金庫は、本稿で紹介した連携事業の参加者および職員からの反響を踏まえ、今後の取組内容について検討し、両金庫が企画を持ち寄って連携事業を運営する形式を継続していく方針である。

1. 背景・経緯

両金庫は、同じ埼玉県川口市に本店を置く信用金庫として、日頃より様々な業務分野で情報交換を行っている。

今般、川口信用金庫が100周年、青木信用金庫が75周年を迎えるにあたり、地域貢献に資する周年記念事業の共同開催が検討され、各金庫主導の連携事業を1件ずつ実施することとなった。両金庫は、以前より良好な関係を築いてきたものの、ここまで大規模に連携した地域貢献活動は初めての試みであった。

本稿では、取組施策の概要、反響および今後の展望等について紹介する。

2. 概要・目的

(1) かわしん&あおしん 川口元気 Food Festa with Music

「かわしん&あおしん 川口元気 Food Festa with Music」(以下「当イベント」という。)は、飲食店の出店と音楽ステージの演出を融合したイベントである。当イベントは、川口信用金庫総務部の主導で2023年9月9日(土)に、JR川口駅前のキュポ・ラ広場にて開催された。両金庫の取引先のほか、川口信用金庫と連携協定を締結している他地域の信用金庫の取引先も含めた19の飲食店の出店と4組の音楽ステージ、2回の抽選会で構成された。

当イベントでは、3年間のコロナ禍で失いつつあった街の活気を呼び戻し、幅広い世代の人と街がひとつになり地域の絆を深めると同時に、100周年記念事業としての地域貢献、とりわけコロナ禍の打撃を受けた飲食店の取引先支援を目的としている。また、川口信用金庫と取引がある地元出身ミュージシャンより、かねてから100周年記念事業に協力したいとの声があったことから、音楽ステージへの出演を依頼した。音楽ステージには、川口信用金庫軽音楽部も出演した。

¹ 2023年3月末の両金庫の概要は以下のとおり。

川口信用金庫 本店所在地:埼玉県川口市、預金量:9,673億円、貸出金:5,323億円、店舗数:45店舗、常勤役員数:666人

青木信用金庫 本店所在地:埼玉県川口市、預金量:8,155億円、貸出金:4,299億円、店舗数:37店舗、常勤役員数:521人

川口市は中核市 60 万人都市で、一定の規模をもつ地域である。両金庫はこれまで地元で強固な取引基盤を築いてきたものの、首都圏のベッドタウンとして当市の人口が増加する中、新たに流入してきた若年ファミリー層に信用金庫ブランドを一層浸透させたいと考えていた。当イベントでは、川口市の個性豊かな地ビールの出店や子供向けコンテンツを充実させた音楽ステージを盛り込むことで、若いファミリー世代の集客を狙った。

当イベントは、青木信用金庫からの「連携するからにはより良いものに」との掛け声で、当初の想定よりも規模を拡大して実施した。加えて川口商工会議所や川口市との強い関係性も活用し、タイトなスケジュールの中でも臨機応変な運営がなされた。

【写真】



イベント会場全体



音楽ステージ

(出所：川口信用金庫提供)

(2) マネースクール

「マネースクール」（以下「当スクール」という。）は、両金庫職員が講師となり、主に川口市内の小学校 6 年生を対象とした金融教育の出前授業であり、青木信用金庫経営企画部の主導で運営している。2023 年度は両金庫で計 21 校の実施となる見込みである。

当スクールは、青木信用金庫が SDGs の取り組みを検討している中で、地域の子どもの金融リテラシーを高める取り組みをしたいと考え 2022 年 10 月から開始したものであり、2023 年度からは川口信用金庫との連携事業として規模を拡大して実施することとした。内容は、紙幣・硬貨の特徴からお金のトラブル、金融機関の業務など、小学生に身近な題材を取り扱っている。終盤には、銀行との比較を中心に信用金庫の役割を紹介し、両金庫の地域金融機関としてのプレゼンス向上を図っている。

運営にあたっては、次回以降も声がかかるよう、毎回の授業で事前準備を徹底している。両金庫の講師となる職員は、過去の回の映像を視聴したうえで、事前研修として青木信用金庫経営企画部から教材内容の解説を受け、リハーサルを実施することで、授業内容の標準化と質向上に努めている。資料や授業の構成は、小学校の先生方の意見も交えて作成し、児童の発言を促し最後まで参加してもらえよう、クイズ形式を導入する等の工夫がなされている。

また、当スクールは市教育局との強固な関係性により普及しつつある。学校側からの意見を参考にテキストは毎年ブラッシュアップしており、小学校の紹介は教育局、実施した学校および金庫総代を介して行っている。

【写真】



授業風景

(出所：青木信用金庫提供)

3. 反響

(1) かわしん&あおしん 川口元気 Food Festa with Music

当イベントの来場者数は約 14,800 人で、会場設営を担当したイベント業者によると、キュポ・ラ広場で行われたイベントの中では最大級の人出となった。当イベントに携わった職員からは、「家族に自金庫の地域貢献の取組みを見せることができた」等の感想が寄せられた。運営の各係には、両金庫の若手職員を半数ずつ選任したため、両金庫の職員間の交流もさらに深まった。

出店先へのアンケート調査では「売行きが良く、品切れになった商品も出た」「次回も出店したい」等の好評を得た。

(2) マネースクール

児童はおおむね積極的に参加し、楽しみながら金融知識を学んでいた。実物大の昔のお金や「一生分の食費」換算額の模擬紙幣の束等、ビジュアルに訴えかける題材への反応が特に良好であった。受講した児童からは「将来は信用金庫に入りたい」といった感想も見られ、授業終盤の信用金庫のPRは十分に効果があったと思料される。

小学校の先生からは、「身近なお金のトラブルについて信用金庫の方から注意喚起して頂いたことで、学校からの指導もより子供たちに響くものになり、有難い」といった声が寄せられた。

4. 今後の展望等

両金庫は、近隣の信用金庫同士で連携して地域貢献事業を実施することが、地元の「信用金庫」がともに地域のために活動していることのPRにつながると考えている。また、連携事業の運営には両金庫の職員の交流が発生することから、地域だけでなく、組織が活性化する効果も期待できる。

本稿で紹介した連携事業は両金庫の周年記念事業の一環として運営されたものであるが、参加者および職員からの反響を踏まえ、両金庫は今後の連携事業の内容について検討し、両金庫が企画を持ち寄って連携事業を運営する形式を継続していく方針である。

本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断をお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。